



喜多の壱

千歳飴

十一月は七五三の月として、各地の神社では七五三詣での家族連れをこの時期よく目にします。この七五三詣での七歳の女の子、五歳の男の子、三歳の男女の子供に渡される祝菓子の一つに「千歳飴(ちとせあめ)」があります。この千歳飴はその名の通り、長生きを祈るもので、近世までは栄養不足や病気で早逝する子供が多かった事から**子供の生存は親の切なる願い**でした。その願いを形にしたものが千歳飴といわれています。

この千歳飴のそもその由来は、文政八年(1825年)に刊行された柳亭種彦の『還魂紙料(かんこんしりょう)』によれば、「元禄宝永のころ、江戸浅草に七兵衛といふ飴売あり。その飴の名を**千年飴**、また寿命糖ともいふ。今俗に長袋といふ飴に千歳飴と書くこと、かの七兵衛に起れり。」

とあり、**元禄時代頃から始まった風習**のようです。また七五三の参拜日も十一月十五日とされたのは、元禄時代の將軍、徳川綱吉の子息の七五三参りの期日に由来しており、現在の七五三の形は元禄時代に定まったようです。

七五三の御祈祷について

当神社では七五三詣でを受付けています。当神社でのご祈祷はご予約を頂く形となっておりますので、七五三予定日の**五日前まで**にお電話か直接お越しになられて**ご予約**下さい。

十一月の二十四節季

日本には春夏秋冬の四季がありますが、この四季を太陽の運行に基き、現在の暦とも合わせて更に細分化したものが二十四節季で、**一ヶ月を二季に分けて**います。

この十一月には**立冬(りつとう)**と、**小雪(しょうせつ)**という名の二季があります。

立冬とは十一月七日頃から小雪までの時期で、読んで字の如く冬の始まりを意味する季節です。この頃から気温が一気に下がりはじめ、十一月の初旬と下旬では最高気温も十度近く違つ日も出てきます。まさに冬の始まりの時期です。しかし、この季節から**インフルエンザ**などの冬特有の病気などが流行し始め、手洗い、うがいなどの**衛生には注意**が必要とされ始める時期でもあります。

小雪は十一月二十二日頃から十二月の大雪までの時期で、地上から**湿気が一気に抜け**、小雪がちらつき始める時期とされます。北風も強くなり木の葉を落とすほどの風が吹く時期ともされます。ちなみにこの時期から**柑橘類が色づき**始め、正月飾りのダイダイなども刈り取りの為の準備が始まります。

この十一月は秋から冬への移ろいと、その準備に動く季節といえそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

